



城ヶ島や三崎は“城ヶ島の雨…”で有名な北原白秋や若山牧水がおとずれ その自然と人情をこよなく愛していくつもの歌を残している。

- 三浦半島の地質調査は戦後海軍の要塞地域から解除されると同時に急速に進み 東京から程よい距離にあることもあって 現在も数多くの研究が学会で発表されている。1968年三梨昂・矢崎清真による2万5千分の1「三浦半島」では 半島全域にわたる詳細な地質図が作成された。本図幅でも その研究成果が多くもり込まれている。

5万分の1地質図幅の新聞

三崎 MISAKI

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著者 小玉喜三郎(燃料部)・岡重文(環境地質部)・三梨 昂(高根大学 元燃料部)

発行 工業技術院地質調査所

東京地学協会(03)261-0809 262-1401

取扱先 地学文献センター(0423)62-5050

その他一般書店でも販売しております

- 品川から電車で1時間あまり出かけると終点「三崎口」に着く。そこからバスを乗りつぎ約30分もすれば 三浦半島南端の城ヶ島に渡ることができる。都心の雑踏とはうってかわって 眼前に広がる広大な太平洋と荒々しい磯の白波は 都会人の心に一時の安らぎを与える。
- 城ヶ島やすぐ北側の油壺は 気候が温暖で良港にめぐまれ 歴史的にも古くから開けた土地で とくに鎌倉幕府設立にまつわり 源頼朝ゆかりの地が随所にみつけられる。半島南端の三崎は 焼津や銚子 気仙沼とならぶ 代表的遠洋漁業の根拠地で 全国一のマグロ水揚げ高を示す漁港である。この三崎町を中心に 南下浦町 初声町 宮川町 海外町などが合併して昭和30年三浦市となった。

- 本図幅は 三浦市南下浦町高抜および同三崎町小網代から三崎町城ヶ島に至る南北約4km 東西約7kmの三浦半島南端部で 東は東京湾に面し 南と西は相模湾に面している。半島中央ふきんに海拔82mの岩堂山があるほかはほとんど平坦な60~30mの台地地形を示している。さらに海岸ふきんには 大正関東大地震で隆起した高さ2~6mの海食台が発達している。
- 台地にみられる地層は中新世後期の三浦層群とよばれ 南岸沿いの三崎層は 砂と泥の互層で ノコギリの歯のように侵食されて 荒々しい荒磯の景観をつくり出している。この地層中には たくさんの断層がみられ また南下浦町松輪の剣崎灯台の下では剣崎背斜の断面が露出している。これらのくわしいルートマップが図幅説明書中に掲載されているので 初心者の見学コースとしても最適である。北部の初声層にはきれいな偽層が発達している。台地の表層部は 厚さ10m以下のローム層でおおわれており 最も広い三崎面は関東平野中部の武蔵野面(M₂)に対比される模式地とされている。45m以上のやや高い台地やさらに80m以上の小台地面は 小原台面 下末吉面に対比される地形面である。

地質ニュース	第312号	8月号
	定価 ¥500	千実費
昭和55年8月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	